

曾木公園モミジ・カエデの種類（15品種）



イロハモミジ

1. イロハモミジ — モミジと言えばコレ！イロハニホヘトと葉の裂片^{れっぺん}を数えたことから、イロハモミジと名が付いた。



オオモミジ

2. オオモミジ — イロハモミジより大ぶりの葉が特徴。紅葉は赤、黄、混ざり、とても美しい。



ヤマモミジ

3. ヤマモミジ(園芸種八坂) — たいへん希少な品種。原種はオオモミジの変種。ライトアップの期間中もっとも赤くなり、すばらしい。



ノムラ
野村モミジ

4. 野村モミジ — 春の新梢が赤く、夏に緑色になり、秋には赤くなり美しい。



台湾ヤマモミジ

5. タイワンヤマモミジ — 台湾の山モミジ、紅葉はとても赤くなり美しい。



セイリウ
青龍モミジ

6. 青龍モミジ — 枝垂れもみじの葉と同じで、江戸時代からある銘品種。



サンゴカク
珊瑚閣モミジ

7. 珊瑚閣モミジ — 枝が赤く珊瑚のよう！紅葉は黄色にしかない。



赤七五三モミジ

8. 赤七五三モミジ — 1本の木に葉の裂片の数が7枚、5枚、3枚とあり、たいへん珍しい。青七五三もある。



9. ^{オオサカズキ}大盃モミジ — 野村モミジと同じく新梢から葉が赤く、紅葉は真赤になり、庭木として人気。



10. ^{シギタツサワ}鴨立沢モミジ — ヤマモミジの園芸種。春もみじの代表作で、明治15年のカエデのカタログに初めて記載された銘品種。



11. ^{カツラ}桂モミジ — 春、夏、秋と葉色が様々に変化する銘品種。



12. ^{イタヤ}板屋カエデ — 黄色に色づくカエデの代表。葉がよく茂り、板でふいた屋根のように雨がもらえないことからこの名がある。



13. ^{ハウチワ}羽団扇カエデ — カエデのなかでは最も葉が大きくてダイナミック！今年から曾木公園に仲間入り。



14. ^{コハウチワ}小羽団扇カエデ — ハウチワカエデの葉よりかなり小ぶりだが、とてもかわいらしい。



15. ^{ウリ}瓜カエデ — 山地にごく普通に生えていて、カエデの仲間では最も葉が小さい。

モミジ・カエデQ & A !

Q. 曾木公園には、何種類のモミジ・カエデがあるの？

A. 今年6品種が加わり、合計15種類あります。
自生するモミジ、カエデの他、珍しい園芸品種など、これから曾木公園の魅力の一つです。

Q. モミジとカエデ 何が違うの？

A. モミジとカエデは、どちらもカエデ科カエデ属の植物です。
違いは2つの説があります。一つは名前のつけ方。
カエルの手=かえるで=かえで。 揉み出す=もみで=もみじ。
もう一つは、葉の切れ込みが深いものをモミジ、浅いものをカエデと呼んでいます。

Q. モミジの葉はなぜ、赤く紅葉するの？

A. 紅葉が赤くなるのは、アントシアニンという色素によるもので、この色素は、葉にたまったデンプンが分解されてできた糖や、クロロフィル（葉緑素）が老化し分解されてできたアミノ酸などによって合成されます。晴れた日が続くと樹木はデンプンを多く蓄えます。温度が下がり、水分の補給が減ると、葉柄と茎の間に細胞の層（離層=落葉の準備）ができ、デンプンが葉にたまります。
また、急に温度が下がるとクロロフィルの分解が進み、アミノ酸がふえます。
つまり、晴れた日が続き、昼夜の温度差が大きくなると、紅葉が美しくなります。